

週報①

広島市医師会臨床検査センター受託分 感染性胃腸炎検出状況(腸管病原菌含)

検出菌 ウイルス	2018年												2019年															
	1月	2月	3月	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	4月	5月	6月	7月	8月 ~4日	8月 ~11日	8月 ~18日	8月 ~25日	9月 ~1日	9月 ~8日	9月 ~15日	9月 ~22日	9月 ~29日
カンピロバクター	37	39	48	105	75	71	122	98	160	113	109	109	56	46	78	65	87	128	102	39	32	11	25	34	35	26	23 (31)	30
病原性大腸菌	66	51	44	98	78	83	111	80	73	69	119	157	85	81	77	69	51	59	51	15	15	0	7	9	27	14	13 (20)	15
腸管出血性大腸菌	0	1	1	0	0	1	1	1	1	1	1	0	0	0	0	0	0	0	0	1	0	0	0	1	1	0	0	1
サルモネラ	3	1	1	5	3	20	12	22	13	9	5	13	5	3	11	6	3	11	5	3	0	0	9	3	7	3	1	3
黄色ブドウ球菌 MSSA	14	11	7	24	10	10	16	26	20	17	22	19	10	9	12	13	14	24	11	2	6	2	7	3	3	4	2	5
黄色ブドウ球菌 MRSA	12	11	13	12	12	17	14	11	18	7	18	22	22	16	22	14	11	12	18	2	3	2	5	3	5	5	2 (3)	3
腸炎ビブリオ	0	0	0	0	0	0	0	0	2	0	0	0	0	0	0	0	1	0	0	0	0	0	0	0	0	6	1	0
その他	0	7	5	3	1	2	4	2	2	1	3	3	0	0	1	0	0	3	1	0	2	0	0	0	0	7	0	0
ロタウイルス	2	11	18	50	10	0	0	0	0	0	0	1	2	3	2	9	4	5	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
アデノウイルス	0	1	0	0	0	0	0	0	0	0	0	2	0	0	1	0	1	3	2	1	0	0	0	0	0	0	0	0
ノロウイルス	13	13	17	4	4	2	3	0	0	0	6	23	23	23	11	11	2	5	0	0	0	1	0	0	1	0	0	0

* ()は前回集計後に新たに検出された件数を含めて表示しています。

週報②

広島県感染症・疾病管理センター(ひろしまCDC) 感染症週報

令和元年第39週(9月23日~9月29日)

2 一類・二類・三類・四類感染症及び全数把握五類感染症発生状況

類別	報告数	疾患名	計	西部	西部東	東部	北部	広島市	呉市	福山市
一類	0	発生なし	0							
二類	6	結核	6			2		3	1	
三類	4	腸管出血性大腸菌感染症	4		1				1	2
四類	4	A型肝炎	1					1		
		日本紅斑熱	1			1				
		レジオネラ症	2					2		
五類全数	4	ウイルス性肝炎(E型, A型除く)	1					1		
		百日咳	3		1			1	1	

注) 西部 … 大竹市, 廿日市市, 府中町, 海田町, 熊野町, 坂町, 安芸高田市, 安芸太田町, 北広島町, 江田島市
西部東 … 竹原市, 東広島市, 大崎上島町
東部 … 三原市, 尾道市, 世羅町, 府中市, 神石高原町
北部 … 三次市, 庄原市

● 詳しい流行状況は、広島県感染症・疾病管理センターのホームページをご覧ください。 <http://www.pref.hiroshima.lg.jp/site/hcdc/>

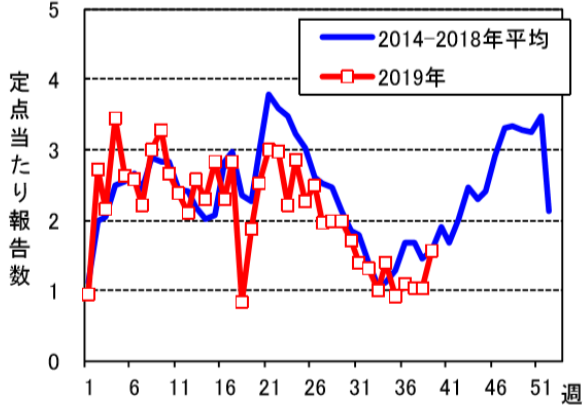
1. A群溶血性レンサ球菌咽頭炎

定点当たり1.58人と、前週と比べて増加しました。

A群溶血性レンサ球菌咽頭炎は、飛沫感染や接触感染で感染し、2～5日の潜伏期を経て、突然の発熱、のどの痛み、全身倦怠感、莓舌(イチゴのような赤いつぶつぶができる)などの症状が現れます。適切な治療により1週間以内に軽快しますが、腎炎やリウマチ熱などの合併症を起こすことがあります。合併症の予防のためには、症状が消えた後も、主治医の指示どおり抗生物質の内服を続ける必要があります。

例年、春～初夏、冬季に報告数が多くなっており、今後の動向に注意が必要です。

A群溶血性レンサ球菌咽頭炎の流行状況



■ 定点把握感染症報告状況(週報対象)

定点種別	疾患名	報告数	定点当たり	平均(注)過去5年間	発生記号	定点種別	疾患名	報告数	定点当たり	平均(注)過去5年間	発生記号
フィレン	インフルエンザ	6	0.16	0.20	↓	小児科	流行性耳下腺炎	1	0.04	0.66	
小児科	咽頭結膜熱	1	0.04	0.24		眼科	RSウイルス感染症	63	2.63	1.40	⇒
	A群溶血性レンサ球菌咽頭炎	38	1.58	1.58	⇒		急性出血性結膜炎	-	-	-	
	感染性胃腸炎	69	2.88	3.76	⇒		流行性角結膜炎	7	0.88	1.38	
	水痘	2	0.08	0.37		基幹	細菌性髄膜炎	-	-	-	
	手足口病	27	1.13	1.79	⇒		無菌性髄膜炎	-	-	-	
	伝染性紅斑	10	0.42	0.18			マイコプラズマ肺炎	-	-	0.26	
	突発性発しん	9	0.38	0.30			クラミジア肺炎(オウム病を除く)	-	-	-	
	ヘルパンギーナ	29	1.21	0.36	⇒	感染性胃腸炎(ロタウイルス)	-	-	-		

急増減 ↑ (Red arrow) 前週と比較しておおむね1:2以上の増減

増減 ⇨ (Yellow arrow) 前週と比較しておおむね1:1.5～2の増減

微増減 ⇩ (White arrow) 前週と比較しておおむね1:1.1～1.5の増減

横ばい ⇄ (Grey arrow) ほとんど増減なし

報告数が少数の場合などは、発生記号を記載していません。

インフルエンザ定点数(小児科定点を含む)	37
小児科定点数	24
眼科定点数	8
基幹定点数	7

(注) 過去5年間の同時期平均(定点当たり)

■ 全数把握感染症報告状況

類型	疾患名	報告数	累計	備考
2	結核	3	124	女性(30歳代)、女性(70歳代)、女性(80歳代)
4	A型肝炎	1	8	男性(30歳代)
4	レジオネラ症	2	21	男性(20歳代)、男性(50歳代)
5	ウイルス性肝炎	1	8	男性(40歳代)・B型・推定感染地域: 国外
5	百日咳	1	69	女性(40歳代)

■ 新たに判明した病原体検出状況

(検査: 広島市衛生研究所)

診断名	主症状	年齢	性別	発症年月日	検査材料	検出病原体
インフルエンザ	発熱(39.0) 咽頭炎 鼻炎	4	男	2019/08/24	鼻汁	インフルエンザウイルスA(H1N1)2009型
A群溶血性レンサ球菌咽頭炎	発熱(37.5) 丘疹 咽頭痛	5	男	2019/08/21	咽頭拭い液	A群溶血性レンサ球菌T3型
手足口病	丘疹 口内炎	3	男	2019/08/27	咽頭拭い液	コサッキーウイルスA16型
無菌性髄膜炎	発熱(38.0) 嘔吐 髄膜炎 項部硬直 頭痛	10	男	2019/08/20	咽頭拭い液	エコーウイルス30型
無菌性髄膜炎	発熱(39.0) 嘔吐 髄膜炎 頭痛	5	男	2019/08/25	髄液	エコーウイルス30型
その他の呼吸器疾患	発熱(38.5) 鼻水 咳嗽	0	女	2019/08/16	鼻汁	ハレコウイルス1型 パラインフルエンザウイルス1型
その他の疾患	発熱(38.3)	0	男	2019/08/08	咽頭拭い液 糞便	ハレコウイルス3型
その他の疾患	発熱(39.3) 発疹 上気道炎	0	男	2019/08/09	咽頭拭い液 糞便 尿	ハレコウイルス1型
その他の疾患	発熱(39.0)	0	男	2019/08/14	鼻汁	エコーウイルス18型
その他の疾患	発熱(39.0)	0	女	2019/08/17	糞便	コサッキーウイルスB5型

* 感染症発生動向調査に基づく病原体定点搬入分のみ掲載